元気っ子通信　No.59

平成 27 年 6 月 4 日発行

　新一年生も学童生活2か月が経ちました。上級生に遠慮しながら、ちょっと不安な顔つきも見られましたが、今では気おくれすることなくみんなと一緒に遊んでいます。
　三重銀行の信号まで指導員が出迎えをするのも5月の連休前まで、それからはみんなが学童まで指導員に頼らずに帰ってきます。指導員は保育園の前の道のところで待っています。いつも、いつも大人に見守られて生活すると、自分で身を守るということができなくなるという指導員の話し合いで今年からはこのような体制としました。

　時代の違いもありますが、今の子どもは大人に守られ過ぎた生活をしているせいか年齢相応のあるべき姿より幼いように感じます。大人が世話をやきすぎ口を挟み過ぎるのは子どもの成長を妨げる大きな要因です。
いつまでも子どもではないし、可愛いだけではすまされません。「こうすればいいのに･･･」「あれ持った？、忘れ物ない？」等など大人は気づかないうちによけいなおせっかいをしているものです。よけいなおせっかいをしないがまんが子どもの大きな成長につながります。子どもに考えさせ、どうするかの判断をさせ見守ることで、子どもは「自分でできた！」という自信を持ち次へのステップへつながります。

手出しせず、ぐっとこらえる大人のがまん･･･これが子どもを育てるコツ

学童に帰って来て、おやつを食べ、宿題をしますが、姿勢の悪い子、正しい座り方のできない子、鉛筆の持ち方の悪い子など日常の生活の姿にもっと気を配ってほしいなと思います。これらは「人格」としてその人をつくります。テストの結果ばかりをみないで、日ごろの姿を大切にしましょう。
今、川で「しかけ」を作って魚釣りをする遊びに夢中です。部屋にも水槽で釣った魚を飼っています。川に落ちたり、すべったり、たくさんのことを経験し学んでいます。自然の中で学ぶことは多いですね。　　以上